

授業内容および授業方法に関する検討

保健体育講座・浅井 英典

1. 授業の目的

本授業の開講目的は、「様々な年代における体力測定方法を理解し，体力要素毎に現在実施されている様々な測定を実践する．また，体脂肪量，筋肉量などの体組成について間接的方法で測定を行う」こととし，キーワードとして「体力測定」「運動処方」「有酸素性運動」「無酸素性運動」を設定していた．受講生には，到達目標として，「1」体力測定方法を説明し，正確に実施できる」「2」年齢に応じて，適切な体力測定方法を選択することができる」「3」測定で得られた測定値を分析し，適確な体力評価をすることができる」などを設定していることを予め説明した．

2. 授業内容

健康スポーツコース指導者養成コースおよびキャリア開発コースに所属する 2 回生 24 名が受講した．講義内容は次の通りである．(1)体力について，(2)体力と運動能力（構成要素），体力構成要素の測定法，(3)文部科学省新体力テストの実施方法と各測定項目に関する解説，(4)新体力テストの実習，(5)長育・量育・周育に関する測定方法などに関する解説，(6)身体計測の実習，(7)体組成測定の実習，(8)立位姿勢測定の実習，(9)立位時および歩行時における足圧中心の計測，(10)各測定結果の解説など，(11)中高齢者を対象にした測定の実習，(12)介護予防に関連する体力測定方法の解説と実習，(13)身体活動量の定量方法の解説，(14)体力，身体，体組成，立位姿勢および歩行時足圧中心測定結果を元にしたレポートの作成などを主な指導内容とした．

3. 授業評価方法

授業評価にあたっては，以下の 4 領域，16 項目から成る質問紙を授業最終回に配布し，無記名で記入を依頼した．

○受講生自身に関して

- 1) 授業への積極的取り組み

○授業の内容に関して

- 2) シラバスと授業の適合性
- 3) 授業内容や説明の分かり易さ
- 4) 授業の進度と毎授業の時間配分適切性
- 5) 授業内容への興味・関心度
- 6) 授業内容の有用性

○授業担当者の授業方法に関して

- 7) 資料や教育メディアの活用の有効性
- 8) 質問等の機会設定と教員の対応
- 9) 教員の意欲・熱意

○授業全体に関して

- 10) 本授業に対する満足度
- 11) 本授業の友人や後輩への推奨度
- 12) 授業の長所，短所，改善点（自由筆記）
- 13) 最も興味が持たれた授業内容(2 項目列記)
- 14) 今後有用と思われる授業内容(2 項目列記)
- 15) 実習を導入することの必要性
- 16) スポーツ実施上必要と考える知識・情報
- 17) 将来の進路
- 18) 健康運動指導士資格認定試験受験意志の有無
- 19) 以下の 5 つの教育学部ディプロマポリシー（1. 知識・理解，2. 思考・判断，3. 技能・表現，4. 意欲・関心 5. 態度）に関する受講前後における向上度

以上の 1～18 までの質問項目については，自由筆記あるいは次の 3 つの選択肢を用意した．

- A. そう思う・だいたいそう思う
- B. どちらとも言えない
- C. あまり思わない・思わない

さらに設問項目 19 では，1～4 段階で評価を行った．

4. 調査結果および考察

本人の意欲および授業内容に関する結果を表1に示した。授業への積極的取り組みに関する項目1)では、13名(54.2%)が肯定的な回答であったが、「どちらとも言えない」と回答した者が11名(45.8%)であったことは、再考しなければならない。項目2)シラバスとの適合性は、17名(70.8%)が、肯定的回答であったが、「どちらとも言えない」は6名(25.0%)であった。項目3)および項目4)では、肯定的回答が17名(70.8%)および15名(62.5%)、「どちらとも言えない」は、11名(45.8%)および8名(33.3%)であり、類似した結果であった。このように、授業内容に関して、「どちらとも言えない」と回答した者が授業者の予想より高かった理由として、今年度初めて担当した授業科目であったため、予め下準備などを念入りに行ったにもかかわらず、授業マネジメントに再検討の余地があることを示している。項目5)および項目6)では、授業者としては、実習が主な内容を占めることから、各自の身体と体力に関する項目を測定することで興味・関心を喚起し、更にスポーツ指導者として将来役立つと考えられる情報であるとの意図を持って授業内容を決めていたが、受講生には十分届いていなかったことは、来年度までに再検討しなければならないと思われる。

表1. 授業終了時に実施した質問紙調査結果 (意欲および授業内容に関して)

質問区分 選択肢	質問	授業内容					
		1)積極的に取り組んだ	2)シラバス通りに行われた	3)分かりやすい	4)進度・時間配分は適切	5)興味・関心が湧いた	6)今後有用な内容
A: そう思う・だいたいそう思う	人数	13	17	13	15	18	15
	%	54.2	70.8	54.2	62.5	75.0	62.5
B: どちらとも言えない	人数	11	6	11	8	6	9
	%	45.8	25.0	45.8	33.3	25.0	37.5
C: あまり思わない・思わない	人数	0	1	0	1	0	0
	%	0.0	4.2	0.0	4.2	0.0	0.0
合計	人数	24	24	24	24	24	24
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表2には、授業方法と授業全体に関する質問結果を示した。授業方法の項目7)は、肯定的回答者は、21名(87.5%)であり、実習を多数取り上げ、逐次その結果を受講生に配付したことが評価されたものと思われる。項目8)は、前述のように今年度初めて担当した授業科目であったため、マネジメントに追われ、

表2. 授業終了時に実施した質問紙調査結果 (授業方法および授業全体に関して)

質問区分 選択肢	質問	授業方法			授業全体		
		7)教育手段は有効	8)質問の機会がある	9)教員の意欲・熱意を感じる	10)満足の内容	11)先輩に講を薦める	15)実習が必要
A: そう思う・だいたいそう思う	人数	21	8	15	13	15	24
	%	87.5	33.3	62.5	54.2	62.5	70.8
B: どちらとも言えない	人数	3	14	9	11	9	7
	%	12.5	58.3	37.5	45.8	37.5	29.2
C: あまり思わない・思わない	人数	0	2	0	0	0	0
	%	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0
合計	人数	24	24	24	24	24	24
	%	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

結果的に質問時間を十分に取ることが出来なかったことが原因の1つとして挙げられる。また、本授業は、健康運動指導士養成講座読み替え科目として本年度から新規に開講し、その養成講座テキストに遵守しながらの講義であったため、その説明に授業者が縛られ過ぎ、時間に追われてしまったことも起因していると推測される。項目9)は、授業者としては、本授業内容が将来的に有用な内容であることや測定などで得られた情報の解釈などについて、力点を置いて説明を行った。しかし、それらが十分に伝わらなかったことは、他の設問項目の結果でも伺うことが出来る。したがって、来年度においては、最も重要なポイントとして授業計画再考を行わなければならないと思われる。

授業全体としては、これまでの述べてきた結果を大凡示していると思われる。

最後に教育学部ディプロマポリシーに関する向上度についての結果を示す。

表3. 教育学部ディプロマポリシー5項目に関する授業後の向上度について

DP1. 充実した生涯学習社会を築くため、スポーツや健康に関する確かな専門的知識を修得している(知識・理解)。

1:	1	2:	2	3:	14	4:	7	合計:	24
	4.2		8.3		58.3		29.2		100.0

DP2. 現代社会で生じている健康やスポーツに関するさまざまな課題について論じ、適切な対応を考えることができる(思考・判断)。

1:	1	2:	5	3:	15	4:	3	合計:	24
	4.2		20.8		62.5		12.5		100.0

DP3. 多世代に対する運動指導やそれに関連した活動に取り組むために必要とされる高い実践的指導力を身につけている(技能・表現)。

1:	0	2:	3	3:	17	4:	4	合計:	24
	0.0		12.5		70.8		16.7		100.0

DP4. スポーツや健康に関する課題に関心を持ち、主体的に課題解決に向かって、理論と指導を連関させた取り組みができる(関心・意欲)。

1:	1	2:	3	3:	16	4:	4	合計:	24
	4.2		12.5		66.7		16.7		100.0

DP5. 多世代にわたる対人関係能力およびコミュニケーション能力を獲得し、豊かな地域社会づくりに貢献するための適切な行動ができる(態度)。

1:	1	2:	12	3:	8	4:	3	合計:	24
	4.2		50.0		33.3		12.5		100.0

(上段:人数, 下段:%)

